

## 4－（２） 美保湾カタクチイワシ資源調査

渡辺 秀洋

### 目的

近年の鳥取県沿岸における漁獲対象魚種を見ると、ハマチ、サワラ、イカ類といった浮魚類の水揚量が多い。その中でもカタクチイワシについては、県西部の美保湾での水揚げが大半を占め、境港の代表的な水産加工品「ちりめんじゃこ・しらす干し」になくてはならない原料の魚となっている。また、すくい網のシラスは主に生鮮で扱われ、生シラスとして貴重な食材となっている。

しかしながら、美保湾におけるカタクチイワシの生態は未だ不明な点が多く、漁業者から解明が望まれている。そこで本調査においてはカタクチイワシの資源動態を把握するため、美保湾におけるカタクチイワシ漁の実態把握を行うことを目的とした。

### 方法

#### ① 漁獲統計情報の収集

鳥取県漁業協同組合から送られてくる漁獲統計情報より、すくい網及び船曳網（1 そう曳、2 そう曳）で漁獲されるカタクチイワシを「シラス銘柄」、「カタクチ銘柄」に分けて集計し、過去 10 年間である 2015 年以降の水揚高を整理した。

#### ② 標本船調査

漁場を把握するために、すくい網と船曳網（1 そう曳）の漁業者にそれぞれ標本船野帳記入を依頼した（2024 年 4 月～2025 年 1 月）。

なお、漁期は、すくい網が周年、船曳網（1 そう曳）は 10 月 15 日～3 月 31 日までとなっている。

### 結果

#### ① 漁獲統計情報の収集

漁獲統計資料を集計したところ、2024 年の水揚量は 19.3 トンで、前年比 23.2%、平年（2019～2024 年）比 29.0%となった（図 1）。

2024 年の水揚金額は 10,543 千円であり、前年比 20.7%、平年比 20.9%となった。

2024 年のシラス銘柄の水揚量は過去 2 年と比べて若干増加したものの低い水準であった。一方、カタクチイワシ銘柄は激減し、近年で最も水揚量が少なかった。

図 2 に示す漁法別にみると、漁場形成がなされなかったことから、船曳網によるカタクチ銘柄の水

揚量の減少が顕著であった。

図 3 に示す月別水揚量をみると、シラス銘柄では初夏の水揚量のピークは例年主に 5 月と 6 月にみられるが、2024 年は 5 月のみであり、両月合わせた水揚量は前年、平年を下回った。一方、秋の水揚量のピークは例年どおり主に 10 月、11 月にみられ、水揚量は前年を上回り、平年並みに推移した。

カタクチ銘柄では、漁期を通して水揚げは低調であった。

それぞれの漁法による 2024 年の操業隻数は全て境港支所所属漁船であり、すくい網は 5 隻、船曳網は 3 隻（1 そう曳：2、2 そう曳：1）であった。

#### ② 標本船調査

標本船野帳からすくい網による漁場を解析したところ、漁期を通して境港市地先が主漁場となっていた（図 4）。シラス銘柄以外の分布をみると、混ざり（シラス銘柄とカタクチ銘柄の両方）は 5 月と 6 月に、カタクチ銘柄は 6 月と 1 月のみにみられた。

一方、船曳網においても境港市地先が主漁場となっているものの、すくい網に比べて米子市和田町や夜見町地先の漁場利用が多い状況にあった。（図 5）。

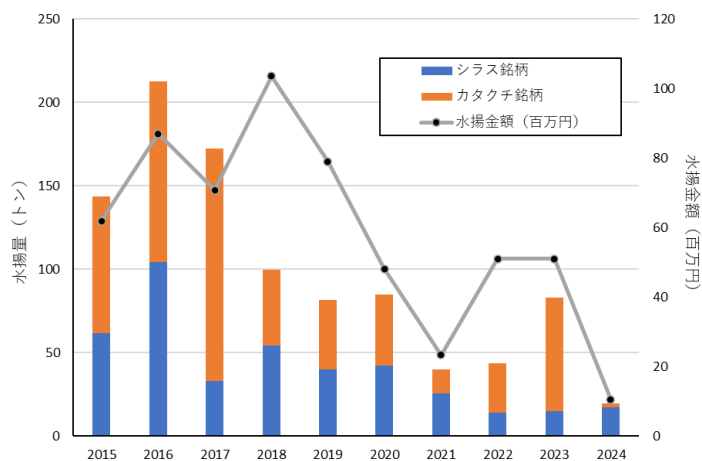


図1 すくい網・船曳網におけるカタクチイワシの水揚量と水揚金額の推移

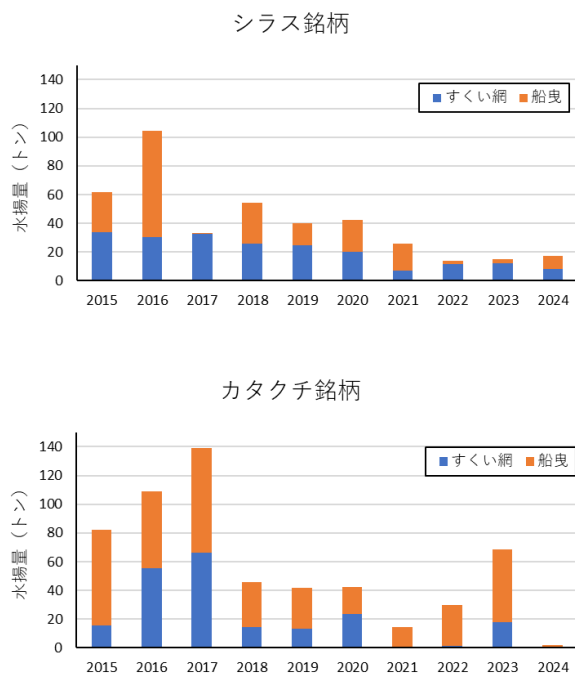


図2 銘柄・漁法別の水揚量の推移

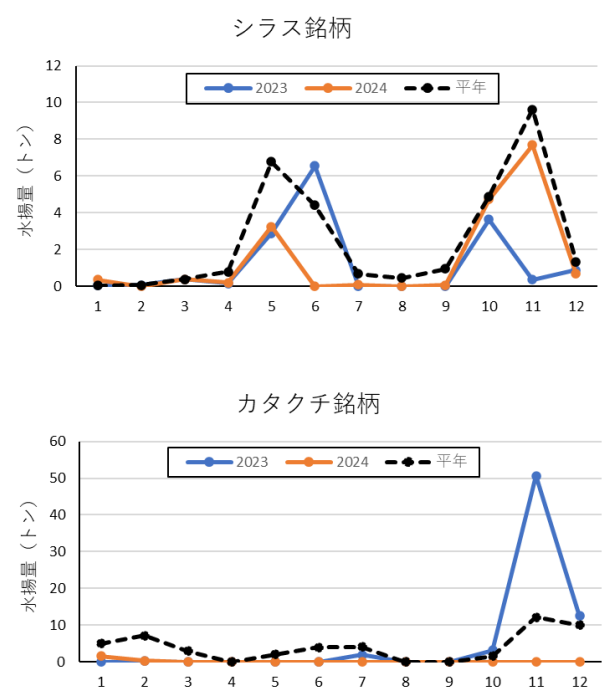


図3 銘柄・月別の水揚量の推移

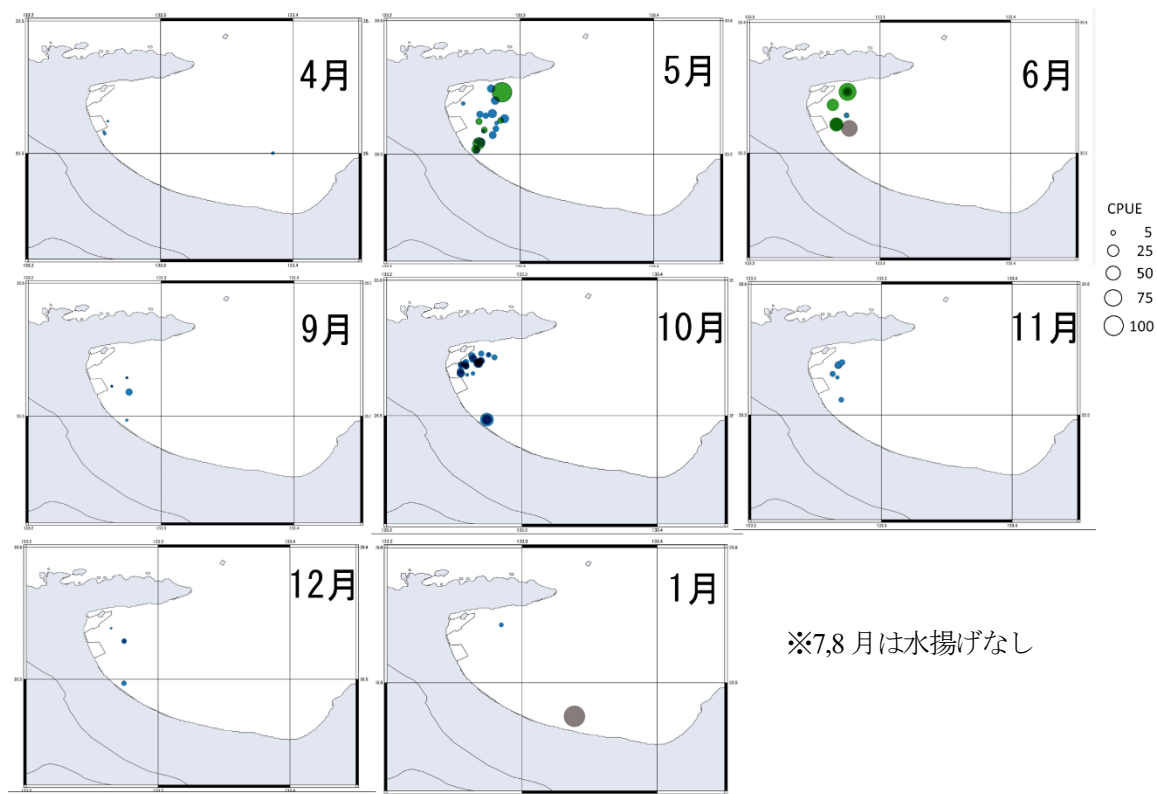


図4 標本船野帳を基にしたすくい網の月別漁場図

(青：シラス銘柄, 灰色：カタクチ銘柄, 緑：混ざり; 円の大小がCPUE の多寡を示す \*CPUE (kg/操業・日) )

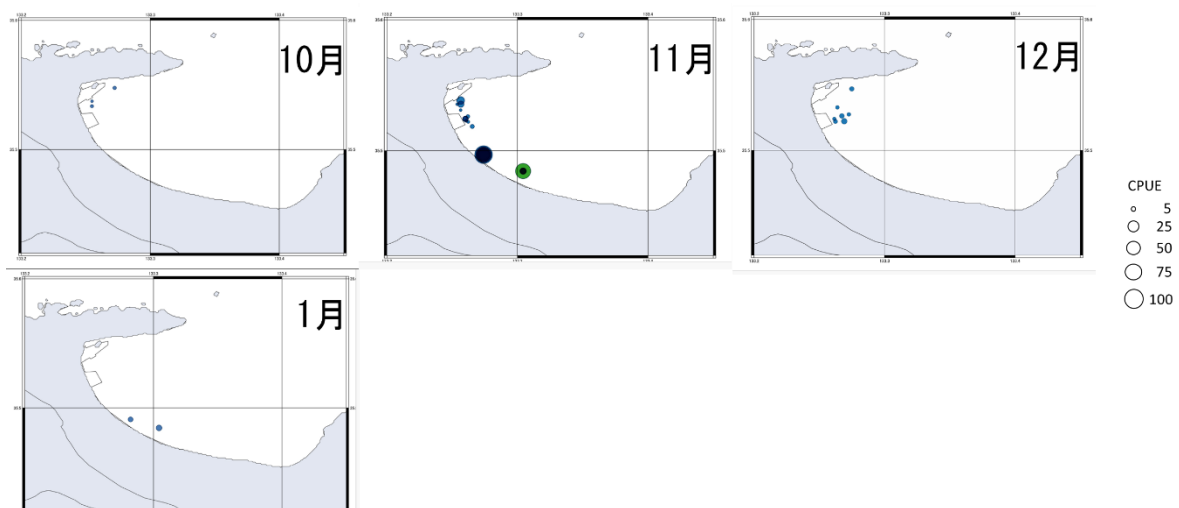


図5 標本船野帳を基にした船曳網 (1 そう曳) の月別漁場図

(青：シラス銘柄, 灰色：カタクチ銘柄, 緑：混ざり; 円の大小がCPUE の多寡を示す \*CPUE (kg/操業・日) )